

キリストが与えたゆるしの模範

◆ イエス・キリストに見倣うことは、すべての人にとって可能です

「キリストは人間の手をもって働き、人間の知性をもって考え、人間の意志をもって行動し、人間の心をもって愛した。かれは処女マリアから生まれ、真実にわれわれのひとりいとなり、罪を除いては、すべてにおいてわれわれと同じであった。」現代世界憲章 22

- ☞1. 「この大祭司は、わたしたちの弱さに同情できない方ではなく、罪を犯されなかったが、あらゆる点において、わたしたちと同様に試練に遭われたのです。」ヘブ 4:15
- ☞2. 「はっきり言うておく。わたしを信じる者は、わたしが行う業を行い、また、もっと大きな業を行うようになる。わたしが父のもとへ行くからである。」ヨハ 14:1
- ☞3. 「わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするようにと、模範を示したのである。」ヨハ 13:15；（ヨハ 15,12 参照）
- ☞4. あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。ヨハ 13:34
- ☞5. 「あなたがたが召されたのはこのためです。というのは、キリストもあなたがたのために苦しみを受け、その足跡に続くようにと、模範を残されたからです。」1ペト 2:21
- ☞6. 「わたしがキリストに倣う者であるように、あなたがたもこのわたしに倣う者となりなさい。」1コリ 11:1

◆ (マタイによる福音書において) 苦しい体験に対するイエスの反応

1. 人々に拒否され、あざ笑われたとき
マタ 8,33 退く
マタ 9,23; マタ 11,19; その働きを続ける
マタ 11,20 メシアを拒否する結果について語る
マタ 13,53 ご自分を無視する人を批判する
マタ 27,39 反応しない
2. 不正に訴えられ、試され、命が狙われるとき
マタ 9,1 から その働きを続ける
マタ 12,15 から 退く
マタ 12,22 から 訴えられていることに根拠のないことを説明する
マタ 22,15 反論する
マタ 26,57; マタ 27,11 から 黙る、その結果を意識しながら真実の宣言する、
3. 弟子から負わされた傷
マタ 16,22 ペトロを厳しく叱る、彼の間違いの原因を説明する
マタ 17,16 弟子たちを叱ってから、教えを与える
マタ 26,24.49 ご自分を裏切るユダを友と呼ぶ
マタ 26,36 失望を表現しながら、弟子たちの弱さに対して理解を示す、復活してから彼らを派遣して、信頼を表す
4. 父である神との関係において
マタ 27, 45 から 見捨てられた(裏切られた)ように感じても、この気持ちを正直に表し、ご自分の霊(命)を父にゆだねて、絶対的な信頼を示す

- ✧ 苦しい体験に対してイエスに反応は様々です。
- ✧ イエスは、何らかのパタンに従うことが見出せません。
- ✧ ご自分を傷つけた人々を憎まないし、彼らに対して敵意を持っていません。
- ✧ ご自分の反応を相手に合わせて、相手にとって最善を行います。
- ✧ イエスの反応は、敵(ご自分に対して敵意を持っている人)への愛の実践です。

- どうして、イエスはご自分を傷つけた人を憎まなかったのでしょうか。
- どうして、ご自分に対して敵意を持って、ご自分を傷つけた人を敵として見ていかなかったのでしょうか。
- どうして、ご自分に対して敵意を持っている人を含めて、すべての人のために善を求めたのでしょうか。
- どうして、必ず人のとがをゆるすことができたのでしょうか。

◆ (その教えが表す) イエス・キリストの確信

📖7. 「あなたがたは地上に富を積んではならない。そこでは、虫が食ったり、さび付いたりするし、また、盗人が忍び込んで盗み出したりする。富は、天に積みなさい。そこでは、虫が食うことも、さび付くこともなく、また、盗人が忍び込むことも盗み出すこともない。あなたの富のあるところに、あなたの心もあるのだ。何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。」 マタ 6:19-21.33

📖8. 「わたしは確信しています。死も、命も、天使も、支配するものも、現在のものも、未来のものも、力あるものも、高い所にいるものも、低い所にいるものも、他のどんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです。」 ロマ 8:38-39

◇ 最も大切なのは、父である神との愛の交わりです。

◇ 誰も神の愛を奪い取ることができませんので、神との愛の交わりを自分の最大な宝にする人は、誰も恐れる必要も、敵として考える必要もありません。

📖9. 「イエスは言われた。「聖書にこう書いてあるのを、まだ読んだことがないのか。『家を建てる者の捨てた石、これが隅の親石となった。これは、主がなさったことで、わたしたちの目には不思議に見える。』」 マタ 21:42 (詩 118,22-23)

📖10 『「だから、町の大通りに出て、見かけた者はだれでも婚宴に連れて来なさい。」そこで、家来たちは通りに出て行き、見かけた人は善人も悪人も皆集めて来たので、婚宴は客でいっぱいになった。」 マタ 22:9-10

📖11. 「神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということ、わたしたちは知っています。」 ロマ 8:28

📖12. 「罪が増したところには、恵みはなおいっそう満ちあふれました。」 ロマ 5:20

◇ 神には、不正や他の悪による人間の苦しい体験を善に変える(悪から善を引き出す)力があり、神が人間から求めておられる協力を断れても、ご自分の計画をもっと素晴らしく実現する力があります。

◇ あらゆる悪から善を引き出す力、悪魔や人間が行う悪をご自分の計画をより素晴らしく実現するために利用する力を持っておられる神によって守られていることは、御摂理と呼ばれます。

◇ イエスは、父である神との愛の交わりをご自分の最大な宝としながら、神の御摂理を信頼していましたので、どんな大きな悪をされても、それを絶対的なものとして考えることも、ご自分を傷つけた人を敵として見ることも、彼らを憎むこともなかったゆえに、彼らを愛しつづけ、彼らに必要な善を求めることができたのです。

◆ 体験・応答・現実の相互関係

